

2023年度第1回プロジェクト評価委員会 議事抄録

日時：2023年6月23日（金）13:00～16:00

場所：国立天文台大会議室及びZoomによるWeb会議

出席者（敬称略）：

委員：井岡、犬塚、大内、奥村、川端[†]、小杉、齋藤^{††}、清水、徂徠、藤澤、満田、吉田

オブザーバ：本原研究連携主幹

事務局：総務課総務係（齋藤）、研究評価支援室（堀）

^{††}委員長、[†]副委員長

【議 題】

1. 前回議事抄録の確認
2. 2023年度プロジェクト評価について
3. プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方の一部改訂について
4. 2022年度プロジェクト評価について（実施報告、評価報告書（案）の審議、「意見書」の検討）
5. その他

【配付資料】

資料1 2022年度第2回国立天文台プロジェクト評価委員会議事抄録

資料2 2023年度国際外部評価の評価4項目原案

資料3 プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方（改訂案）

資料4 科学研究部評価報告書（案）

参考資料1 国立天文台プロジェクト評価委員会規則（令和4年7月1日改訂）

参考資料2 Scientific Goals and Missions（野辺山宇宙電波観測所、水沢VLBI観測所、ASTEプロジェクト）

参考資料3 国立天文台プロジェクト評価実施年度まとめ

【議 事】

1. 前回議事抄録の確認

齋藤委員長より、前回議事抄録（資料1）は、委員への照会後に国立天文台ホームページ¹で公開済みのため報告のみとし、間違い等があれば指摘するよう依頼があった。

2. 2023年度プロジェクト評価について

齋藤委員長より、資料2、参考資料2、3に基づき、今年度国際外部評価の対象プロジェクト3つ（野辺山宇宙電波観測所、水沢VLBI観測所、ASTEプロジェクト）について、評価4

¹ <https://www.nao.ac.jp/recommend/project-review-committee/>

項目 ((エ) ~ (キ)) 原案の説明があり、続いて各項目について審議が行われた。

(エ) 外部評価の項目、(オ) 外部評価の観点、 評価基準

主な質疑応答

- ・野辺山宇宙電波観測所 (NRO) 45m望遠鏡の状況は？
→2021年度で共同利用観測を終了し、2022年度より観測時間を有料化した運用を開始した。受信機等の小さなトラブルは時々あるが、観測は継続している。
→2022年度以降の運用・科学的成果、ユーザのフィードバックも把握する必要がある。
→(オ) の各観点・基準に、有料運用開始後も対象に含めるよう追記してはどうか？
- ・水沢 VLBI 観測所 (MIZ) の評価項目・観点として、「VERA の総括」・「VERA の位置天文観測の成果を総括する」を加筆する。
- ・ASTEの「運用停止につながるリスク」とは？
→ASTEは故障により過去に運用が停止したことがあった。現場の状況や運用停止のリスクがあることについて執行部が認識しているか、という観点。
- ・ASTEの現状と今後について。NRO、MIZと同様に評価するのか？
→副鏡を修理中。修理後、共同利用観測、大型外部資金による大型科学プログラム、開発のテストベンチ、の3つを行う予定。野辺山45m鏡とASTEは類似性が高いので、この2つは評価委員 (国外委員) を共通とし、続けて評価を行うことを検討している。
- ・より長期的なビジョンについて、各プロジェクトに具体的に聞いてはどうか？評価とは違うかもしれないが、しっかり考えておく必要があると思う。
→評価対象期間は「前回評価後から現在まで」を基本としているが、重要な観点である。
- ・3つ共通の観点「国立天文台が運用するNRO、MIZ、ASTEは現在独立に運用・保守・予算・人員を管理しているが、そのままが良いか、より効率的な運用をすべきか。」の意図は、各プロジェクトが独立でなく、他と共同で運営した方がよいかを確認することか？
→基本的にはそのとおり。必要ならば、各プロジェクトの基礎資料 (人員・予算等) をまとめて、共通の参考資料として提示しても良い。
- ・(エ) と (オ) の対応関係はわかりやすい方がよい。評価者が混乱しないように。
→両者の関係をクリアにし、フォーマットをそろえる。(オ) はなるべく具体的に書く。
- ・(エ) と (オ) はプロジェクトごとに異なるが、それでよいのか？
→3つのプロジェクトに共通の項目を作った方がよい。聞き方が違うと比較しにくい。
→NROの書きぶりに合わせる。
- ・国立天文台として、評価結果を複数プロジェクトの比較に使うことを想定しているか？
→評価報告書は、台長への答申や運用会議で報告される。使う際はどのような評価基準で実際されたかに留意する²としているが、比較に使うと決まっているわけではない。

² 「公開された評価報告書を利用する際に、利用者はそれが個別のプロジェクト毎の評価基準に照らして実施された評価であることに留意する必要がある。」 ([プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方](#) (2021年9月6日) P.6)

- プロジェクト評価の目的は、各プロジェクトにとって適切な観点で評価を行い、それを次の活動等にフィードバックし、アクションをかけていくこと。だから、評価の観点はあまり共通化しなくてもよいのではないか？
- 比較するわけでないなら、プロジェクトごとに事情も異なるので、必ずしも同じ聞き方でなくてよい。一方、教育・広報等の観点に過不足があると、答申をもらう側もわかりにくい。共通部分+各プロジェクト特有の部分、の2つに分けてはどうか？
- プロジェクトごとに評価実施年度が異なる。毎回同じ議論を繰り返さずに済むよう、共通部分は該当項目をまとめ、各プロジェクト特有の部分を追加すればよい。
- 今回からそうしたい。資料2より、共通部分、各プロジェクト特有の部分を洗い出し、まとめ直す。共通部分は同じような形で書く。事務局で持ち帰り、案を提示する。

(カ) 外部評価委員会の委員の人数と人選

審議にあたり、齋藤委員長より以下の説明があった。

- ・ 国外機関の委員も含めて、現地で外部評価を実施する予定。
- ・ オンラインで事前協議を行う場合、委員間の時差が開きすぎない方がよい。
- ・ 女性を1名以上含める。また、プロジェクトとの利益相反を避け、専門分野も考慮する。
- ・ 原案の候補者以外に、プロジェクト評価委員会から適任者を挙げてよい。

審議の結果、候補者を決定し、候補者に打診することとした。

- ・ 国外委員：2名以上→優先順に就任を依頼し、上位2名とする。
- ・ 国内委員1：プロジェクト評価委員会から台外委員1名以上。
- ・ 国内委員2：コミュニティの有識者1名以上→優先順に就任を依頼し、上位2名とする。

(キ) 外部評価コーディネータ（世話人）の人選

各プロジェクトの担当執行部である、齋藤委員長の就任が確定した。

3. プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方の一部改訂について

齋藤委員長より、資料3に基づき、「プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方」改訂の背景と変更点について説明があった。変更点は承認され、今後の外部評価はこれに基づき行うこととなった。改訂版は、幹事会議、運営会議で報告後、国立天文台ホームページ¹にて公開される。

主な変更点

- ・ 令和4年7月に改訂された、プロジェクト評価委員会規則(参考資料1)と内容を整合。
- ・ 語句の修正(研究部→科学研究部、評価委員会→外部評価委員会)。
- ・ 誤解がないよう文言の並べ替え・補足など、文章をわかりやすくした。

4. 2022年度プロジェクト評価について(実施報告、評価報告書(案)の審議、「意見書」の

検討)

昨年度行われた科学研究部の国際外部評価について、外部評価委員会委員として評価に参加した川端副委員長より、評価報告書(案)(資料4)に基づき、説明があった。続いて、同じく外部評価委員会委員として評価に参加した井岡委員から、同案のポイントについて補足説明があった。

審議の結果、評価報告書(案)は原案通り承認された。さらにこの報告書を踏まえ、プロジェクト評価委員会として国立天文台全体で考えてもらいたい科学研究部の役割を「意見書」にまとめ、評価報告書とセットで台長に提出することとなった。

5. その他

齋藤委員長より、2021年度に実施した国際外部評価(4件)について、担当執行部がプロジェクト側と協議のうえ、評価報告書の指摘事項をフォローし、アクションアイテムをCloseしていること、同様に今回承認された科学研究部の評価報告書についても指摘事項をしっかりとフォローし、プロジェクト評価委員会で報告したい旨、連絡があった。

最後に、齋藤委員長より、次回は7月末に1時間程度開催する可能性があり(評価の観点を再レビュー)、その場合は委員へ至急連絡すること、その次は評価実施後に開催予定であること(概ね1年後)、について確認があった。

以上